

裏面に町会行事年間計画表があります

■ 新年度を迎えて

会員の皆様には町会運営に対して多大なるご協力とご支援を頂き、心より感謝申し上げます。いま日本中、いや世界中が目に見えない敵、新型コロナウイルス感染症と戦っています。緊急事態宣言が発令され、自粛・自粛で大変な思いをされていることと思います、先の見えない現状ですが早い収束を願うばかりです。このような状況のもと、当町会の総会も一堂に会しての開催ができなくなり、「書面議決」の形にさせていただきました。表決の結果 すべての議案が過半数の賛成を以って承認を得られました、議決に対するご協力に感謝申し上げます。

尚、この議決をもちまして今年度の町会運営を開始させていただきますが、新型コロナウイルス感染症の収束状況によっては、計画しております行事が中止や延期になる場合がありますのでご承知おきください。

■ 新旧役員・委員の皆様へ

新年度を迎え役員・委員の交代がありました、永く役員や委員を続けて頂きここで退かれる方には永年のご尽力に対し深く感謝申し上げます、これからもご助言ご協力を賜りますれば幸いです。新役員・委員の方には、この一年間町会運営に私どもと一緒に楽しく携わって頂ければと思います。

■ 首無し地蔵の伝説

前々号で北八交番前の「首無し地蔵」についての情報提供をお願いしたところ、北区の藤江さんと東区の浅見さんから貴重な資料をいただきました、情報提供をありがとうございました。

□首なし地蔵尊の由来 「ふるさと八王子誌」より 藤江哲夫氏提供

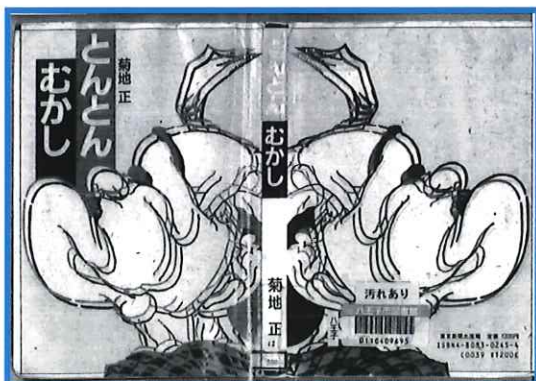
この地蔵尊の首は時を経て取れたものではなく、最初からなかったと伝えられている。昔、相模の旅僧が荒れたこの土地を見て、為政者の無能を批判し、それを聞いた役人が怒って、僧の首をはねてしまったのである。哀れに思った土地の人々は地蔵を作り僧の供養をした。ところがこの地蔵、何としても首がころげ落ちてしまうので、やむを得ず首のないまま、祀ったということである。



また、これと違う伝説も語り継がれている。この土地で馬方をしていたものが、江戸の馬方宿に泊まった晩の事。宿の近くで火事があり飛び出してみると、あんまが小さな包みを抱えて途方に暮れていた。それを見た馬方は包みを奪って逃げてしまった。包みの中身は金であったという。其の後この馬方は不幸が続いたため、あんまの供養に地蔵を作ったということである。地蔵の首がないのは、相模の石工が運んでいる途中で割れたのだという。首なし地蔵は、首から上の病気や首が回らないとき無病息災などの功德があると言い伝えられて、今も人々の信仰をつないでいる。

昭和 55 年 9 月 首なし地蔵尊保存委員会/北八町会厚生委員会 設置の表示板より転記

□首なし地蔵 第八小学校元教諭 菊地 正著「とんとんむかし」より 浅見敏夫氏提供



八王子の石川の朝鞍野に、ひとりの旅の坊さまがやってきた。坊さまは相州（神奈川県）の遊行寺の遊行僧じゃったと。豪気な坊さまで、朝鞍野の土地の荒れようを見ると、「この地には治める者なきか！」と、喝破したそうじゃ。それを聞いた役人は、「生意気な坊主め！」といって捕えてしまった。けれど、「下役人では、話にならん！」となおも叫ぶので、役人たちは腹を立てて、坊さまの首をはねてしまった。ところが、なんと……首をはねられた坊さまは、そのまま立ち上がると、驚きさわぐ人々をしりめに、すたすたと歩きだしたと。しかし、道が大谷と大和田にわかれるところで首のない悲しさに、方向を失って倒れてしまったそうじゃ。

哀れに思った土地の人々が地蔵さまをまつて坊さまの供養をしようとしたが、どうしても首が付かず、しかたなく、首のないまま建てたそうじゃ。日野宿在には首塚もまつられたということじゃ。